

## 山梨 浩利先生のこころとからだを癒すアート

はってん みらい  
「**発展・未来**」

本誌を横にご覧いただくと、3D(立体的)にみえてきます。この時、脳波は自然界(地球)と同調しています。眺めることで心身の健幸に、飾って場の浄化などにもお役立てください。

# 山梨浩利先生の HADO 講座

## 第16回 形が発する波動ー黄金比

### HADO(波動)の概念

HADO(波動)数値とは、生体・細胞が感じる度合いのこと。

プラスの数値は生体・細胞が共鳴・同調していることであり、この数値が高いほど、生体・細胞が「喜び・感謝している」状態を示しています。

逆に、マイナスの数値は生体・細胞が非共鳴・拒絶していることであり、この数値が低いほど、生体・細胞が「嫌がる・拒否している」ことを示しているといえます。

すなわちHADO(波動)数値とは、自然の一部である人間と、自然界の摂理との調和度合いの目安となるものです。

黄金比とは、ひとりで言う「塩梅のよい数値」のことです。塩梅がよいと、見ていてなんとなく心が安らぐとか、美しいと感じますが、これは、私たちの意識の深いところで共鳴する何か「黄金比」にあるからでしょう。

ちなみに、「白銀比(＝大和比)」と呼ばれるものもあり、法隆寺の1階と2階の比率や五重塔の下層部と上層部の比率、身近なところでは、A版、B版の用紙サイズも白銀比になっています。

### 生命の根源にも見られる黄金比

古代から種が存続されているオウム貝の螺旋構造も、横と縦の比率が永続的に黄金比を描き続けます。一方、絶滅したアンモナイトには、この比率が見られないことも興味深いところです。

黄金比は他にも、DNAの螺旋やマツボックリ、ひまわりの種の並び、花びらなど、自然界に存在する様々な「生命の根源」に見られます。(図1)

また命あるものには必ず宿っている「水」の分子構造もまた黄金比で成り立っています。(図2)△ABCは、辺AB、ACと高さADが黄金比であり、辺AB、ACと底辺BCも黄金比という、2つの黄金比を持つているのです。

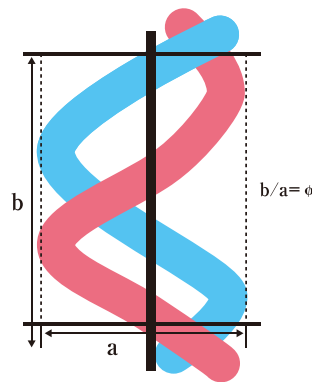


図-1 DNA螺旋と黄金比

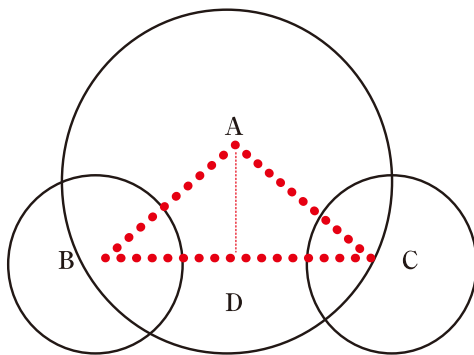


図-2 水の分子

### 私たちが黄金比に心惹かれる理由

私たちがよく知る歴史的な絵画や芸術作品、建造物などにも、黄金比を基本として作成されたものが多くあります。レオナルド・ダ・ヴィンチやセザンヌ、ダリやピカソ、葛飾北斎の富嶽三十六景、ミロのヴィーナス、ギリシアのパルテノン神殿、

クフ王のピラミッド、古代ローマの凱旋門、フランスのノートルダム寺院など、挙げればきりがありません。こうした作品には、均整美を表現する方法として、自然界の黄金比が用いられているのです。

私たちがまた自然界の一部です。自然界の法則である黄金比を用いた作品に共鳴し、心惹かれる理由はそこにあるのだと思います。



エヌ・ピュア 研究・開発顧問  
山梨 浩利

1962年静岡県焼津市に生まれる  
1985年中央大学理工学部工業化学科卒業。  
大手食品会社で主に食品の研究開発に従事。数々の商品を世に送り出す。  
サトルエネルギー学会、機器検討委員会などにも参画。その活躍は、広く海外にまで広がっている。  
現在、山梨事務所を設立し、微生物、発酵、鉱物をテーマにした本物商品の研究や企画開発などを行っている。  
(株)エヌ・ピュア研究開発顧問。著書に『見るだけ聴くだけ 超快眠！CDブック』がある。